

第1回 福知山市地域福祉推進委員会

【 議 事 概 要 】

| | | | | |
|---------------|---|-----------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|
| 開催日時 | 令和6年2月28日（水曜日） 13時30分～15時50分 | | | |
| 会場 | 総合福会館33・34号室（3階） | | | |
| 出席委員 （17名） | 荒木 早苗 塚本 直矢 林 あゆみ 三浦 歴 柳井津 佑健 | 植田 孝太郎 西垣 哲哉 原田 寿樹 森川 朋子 | 大野 森志 西村 勝 牧 孝年 夜久 昭広 | 田中 愛子 ◎長谷川 豊 松下 正美 ○夜久 豊基 |
| 欠席委員 （2名） | 岡野 和樹 山本 正一 | | | |
| 傍聴者 | 0名 | | | |
| 事務局 （11名） | 福祉保健部：柴田部長 社会福祉課：高橋次長・高橋係長・久保主事 子ども政策室：荒賀次長 障害者福祉課：栗林課長 高齢者福祉課：小野木次長 地域包括ケア推進課：高山課長 社会福祉協議会：宮本課長・竹本・山本（実習生） | | | |

◎：委員長 ○副委員長 ※敬称略

◆ 次 第

- 1 開 会
- 2 副市長あいさつ
- 3 委嘱状交付
- 4 委員自己紹介
- 5 委員長・副委員長選出
- 6 委員長・副委員長あいさつ
- 7 議事
 - (1) 地域福祉推進委員会について（資料1）
 - (2) 第4次福知山市地域福祉計画について（資料2、資料2-1）
 - (3) 重層的支援体制について（資料3）
 - (4) 社協の活動について（資料4ほか）
 - (5) 市民アンケートの分析について（資料5-1、5-2、5-3）
- 8 閉 会

◆ 配付資料

- 資料 1 福知山市地域福祉推進委員会設置要綱
- 資料 2 第 4 次計画の数値目標
- 資料 2 - 1 令和 5 年度に実施した関連事業等
- 資料 3 重層的支援整備体制事業の取り組みについて
- 資料 4 令和 5 年度 主な社協の取り組みについて
- 資料 5 - 1 市民アンケート調査票
- 資料 5 - 2 市民アンケートの分析
- 資料 5 - 3 令和 6 年度において予算が拡充される関連事業
- 資料 6 福知山市地域福祉推進委員会連絡票

◆ 主な意見

○重層的支援体制は、福祉に限定されるような相談体制になっている感じを受ける。もっと幅広い感じの、福祉部門に限定せず広げる感じでできないのか。

○（資料 3 の 9 ページ）我々は実際にこの支え合い活動をやっているが、現場の実情を言うと、サポーター不足が深刻。サポーターへの賃金が 1 時間に 5 0 0 円では、支え合い活動そのものが継続できないという危惧も持っている。

○資料 3 の最終ページに載っているのは、B 型事業をやるための補助金を行政から得ているところだ。すべて自前でやっているところには、その辺りの支援がまったく届いてないのが実態である。

○在宅介護では、80~90 代の高齢者を 50~60 代の子どもが看ているが、高齢者が亡くなった後とか、施設入所した後は、就労していない子どもが孤立してしまう。生活と仕事の相談窓口では令和 5 年度の相談件数が 70 件とたくさん受けているが、就労につながったのが 2 件ということでは、やっぱり就労までいくのは大変なんだなあと感じる。

○（資料 5 - 1 の F 8 - 1、F 8 - 2）相談されない心配事に対して、ただ地域に結びつけて相談する人ができたらそれでいいのか。どこの機関に結び付けたらいいのかが分かるような一覧があると良い。相談を受けた人も、その次につながりやすい。

○市民アンケートでは、相談先が民生委員だと回答した人も減っていた。どこに相談したらよいか分からないとき、身近な地元で相談してもらう先が民生委員。担当部署につながるのが民生委員の仕事であるが、受け皿になりきれていない実態を感じる。

○先の改選時、民生委員のことを知っていると思われる行政経験者などへ就任依頼に回ったが、「大変な仕事だから私にはできない」と言われて、そんな風に見られているのかと困惑した。どこら辺が大変に見えているのか、もう少し掘り下げて確認したら、負担軽減や欠員解消につながるのではないかと。